

資料3—18 三重県における赤潮発生状況（平成18年1月1日～12月31日）

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km ²)	発生水深 (m)	最高細胞数 (cells/ml)	漁業被害の有無 (被害整理番号)	情報源
1 (S-1)	1.10- 1.31	志摩度会 (的矢湾)	<i>Akashiwo sanguinea</i>	1.10に的矢湾宮湯浦において <i>Akashiwo sanguinea</i> 赤潮が確認された。最高細胞数は1.31の0m層における1,240 cells/mlであった。	不明	0-4	A.s. 1,240	無	水産研究部 南勢志摩県 民局水産室 志摩市
2 (S-2)	3.13- 3.14	志摩度会 (的矢湾)	<i>Gonyaulax spinifera</i> <i>Alexandrium tamarense</i>	3.13に的矢湾和部船着場において <i>Gonyaulax spinifera</i> と <i>Alexandrium tamarense</i> による赤潮が確認された。 <i>G. spinifera</i> の最高細胞数は0m層における2,210 cells/mlであった。 <i>A. tamarense</i> の最高細胞数は0m層における195 cells/mlであった。 3.14に湾中央3m層で <i>G. spinifera</i> 390 cells/ml、 <i>A. tamarense</i> 24 cells/ml となった。	不明	0-3	G.s. 2,210 A.t. 195	無	水産研究部 南勢志摩県 民局水産室 志摩市
3 (K-1)	5.9	熊野灘北部 (尾鷲湾口中央部)	<i>Gymnodinium</i> sp.(Midorishio)	5.9に尾鷲湾の湾口中央部において <i>Gymnodinium</i> sp.(Midorishio)による赤潮が確認された。最高細胞数は0m層における3,160 cells/mlであった。	不明	0-2	G.sp. 3,160	無	尾鷲水産研究室
4 (S-3)	5.16	志摩度会 (英虞湾)	<i>Skeletonema costatum</i>	5.16に英虞湾鵜方浜において <i>Skeletonema costatum</i> による赤潮が確認された。最高細胞数は0m層における25,000 cells/mlであった。 水色：25	不明	0	S.c. 25,000	無	水産研究部
5 (S-4)	5.31- 6.1	志摩度会 (英虞湾)	<i>Heterosigma akashiwo</i>	5.31に英虞湾鵜方浜において <i>Heterosigma akashiwo</i> による赤潮が確認された。最高細胞数は5.31の0m層における10,550 cells/mlであった。 その後6.1まで継続した。 水色：23	不明	0-2	H.a. 10,500	無	水産研究部
6 (S-5)	6.1- 6.12	志摩度会 (阿曾浦)	<i>Prorocentrum dentatum</i>	6.1に阿曾浦(あちの浦)において <i>Prorocentrum dentatum</i> による赤潮が確認された。最高細胞数は6.5の5m層における8,240 cells/mlであった。 その後6.12まで継続した。	不明	1-5	P.d. 8,240	無	南伊勢町 (南島種苗センター)

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km ²)	発生水深 (m)	最高細胞数 (cells/ml)	漁業被害の有無 (被害整理番号)	情報源
7 (I-1)	6.12	伊勢湾 (北中部)	<i>Noctiluca scintillans</i>	6.12 に伊勢湾北中部において <i>Noctiluca scintillans</i> 赤潮が確認された。	576	0	不明	無	漁業生産研 究所 海幸丸
8 (I-2)	6.22- 7.14	伊勢湾 (北中部)	<i>Ceratium furca</i> <i>Skeletonema costatum</i>	6.22 に伊勢湾において <i>Ceratium furca</i> と <i>Skeletonema costatum</i> による複合赤潮が確 認された。 <i>C. furca</i> は湾北部で濃厚なパッチ が確認された。7月初旬には範囲を空港島近辺 に縮小し、7月中旬に終息した。 水色：15	869	0	C.f. 738 S.c. 6,860	無	しらなみ 海幸丸 常滑建設事 務所
9 (S-6)	6.27	志摩度会 (五ヶ所湾)	<i>Ceratium furca</i>	6.27 に五ヶ所湾湾口部において <i>Ceratium furca</i> による赤潮が確認された。最高細胞数は 2m層における 651cells/ml であった。	不明	0-5	C.f. 651	無	南伊勢町 (南勢種苗 センター)
10 (S-7)	7.7	志摩度会 (五ヶ所湾～ 英虞湾の沖合)	<i>Ceratium furca</i>	7.7 に五ヶ所湾から英虞湾の沖合にかけて <i>Ceratium furca</i> による赤潮が確認された。 最高細胞数は五ヶ所湾沖 0m 層における 1,710 cells/ml であった。	不明	0	C.f. 1,710	無	水産研究部
11 (K-2)	7.10	熊野灘北部 (二木島湾)	<i>Ceratium furca</i>	7.10 に二木島湾において <i>Ceratium furca</i> による赤潮が確認された。最高細胞数は 0m 層における 2,350 cells/ml であった。	不明	0	C.f. 2,350	無	尾鷲水産研 究室
12 (I-3)	7.26- 8.2	伊勢湾 (北東部)	<i>Thalassiosira spp.</i>	7.26 に空港島周辺で緑褐色の赤潮が確され れた。8.2 の調査で <i>Thalassiosira spp.</i> による 珪藻赤潮であることが確認された。 水色：45	35	0	T.spp. 15,950	無	常滑建設事 務所 しらなみ
13 (S-8)	7.26	志摩度会 (坂手島～ 浦村)	<i>Thalassiosira spp.</i> <i>Skeletonema costatum</i>	7.26 に鳥羽市の坂手島から浦村にかけて <i>Thalassiosira spp.</i> と <i>Skeletonema costatum</i> による赤潮が確認された。 最高細胞数はどちらも坂手島南側 0m 層の 9,800 cells/ml (<i>Thalassiosira spp.</i>)、 5,250 cells/ml (<i>Skeletonema costatum</i>) であった。	不明	0-5	T.spp. 9,800 S.c. 5,250	無	水産研究部 鳥羽磯部漁 業協同組合
14 (S-9)	7.26	志摩度会 (英虞湾)	<i>Chaetoceros spp.</i>	7.26 に英虞湾鵜方浜において <i>Chaetoceros spp.</i> による赤潮が確認された。 最高細胞数は、0m 層における 10,550 cells/ml	不明	0	C.spp. 10,550	無	水産研究部

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km ²)	発生水深 (m)	最高細胞数 (cells/ml)	漁業被害の有無 (被害整理番号)	情報源
				であった。					
15 (S-10)	8.1	志摩度会 (英虞湾)	<i>Heterocapsa circularisquma</i>	8.1に英虞湾の湾奥部において <i>Heterocapsa circularisquma</i> による赤潮が確認された。 最高細胞数は宮ヶ崎の4.6m層における220 cells/mlであった。	不明	4.6-底	H.c. 220	無	水産研究部 英虞湾内真珠養殖漁業 協同組合
16 (S-11)	8.7 - 8.13	志摩度会 (英虞湾)	<i>Karenia mikimotoi</i>	8.7に英虞湾の湾奥部において <i>Karenia mikimotoi</i> による赤潮が確認された。 8.7に立神8.1m層で1,530 cells/ml、8.8には伝六前5m層で5,430 cells/mlが確認された。 その後、発生海域は湾中央部へ拡大した。 最高細胞数は8.10の立神5m層における9,163 cells/mlであった。8.13に和具5m層で1,920 cells/ml確認された以降、赤潮は確認されなかった。	不明	5-8.1	K.m. 9,163	無	水産研究部 英虞湾内真珠養殖漁業 協同組合
17 (S-12)	8.21	志摩度会 (英虞湾)	<i>Heterocapsa circularisquma</i>	8.21に英虞湾の湾奥部において <i>Heterocapsa circularisquma</i> による赤潮が確認された。 最高細胞数は宮ヶ崎3.8m層における213 cells/mlであった。	不明	3.8	H.c. 213	無	水産研究部
18 (I-4)	9.11- 9.19	伊勢湾 (北中部)	<i>Skeletonema costatum</i>	9.11に伊勢湾の西部(鈴鹿市沖)において <i>Skeletonema costatum</i> による赤潮が確認された。最高細胞数は鈴鹿市沖0m層における96,750 cells/mlであった。 水色: 36	>354	0	S.c. 96,750	無	鈴鹿水産研究室 水産研究部 あさま しらなみ
19 (I-5)	10.2	伊勢湾 (北部)	<i>Skeletonema costatum</i> <i>Thalassiosira</i> spp.	10.2に伊勢湾北部(常滑沖)において <i>Skeletonema costatum</i> , <i>Thalassiosira</i> spp. を構成種とする珪藻赤潮が確認された。 水色: 45	>34	0	S.c. 15,250 T.spp. 2,590	無	しらなみ
20 (S-13)	10.31	志摩度会 (五ヶ所湾)	<i>Heterosigma akashiwo</i>	10.31に五ヶ所湾において <i>Heterosigma akashiwo</i> による赤潮が確認された。 最高細胞数は五ヶ所地先0m層における3,160 cells/mlであった。	不明	0	H.a. 3,160	無	南伊勢町 (南勢種苗 センター)

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km ²)	発生水深 (m)	最高細胞数 (cells/ml)	漁業被害の有無 (被害整理番号)	情報源
2 1 (S-14)	10.31	志摩度会 (古和浦湾)	<i>Heterosigma akashiwo</i> <i>Skeletonema cosutatum</i>	10.31 に古和浦湾西浦において <i>Heterosigma akashiwo</i> と <i>Skeletonema cosutatum</i> による赤潮が確認された。 <i>Heterosigma akashiwo</i> の最高細胞数は 2.5m 層における 860 cells/ml であった。 <i>Skeletonema cosutatum</i> の最高細胞数は 2.5m 層の 8,500 cells/ml であった。	不明	2.5	H.a. 860 S.c. 8,500	無	越賀真珠漁業協同組合 水産研究部
2 2 (I-6)	10.31- 11.1	伊勢湾 (北西部)	<i>Akashiwo sanguinea</i>	10.31 に伊勢湾北西部 (四日市港) において <i>Akashiwo sanguinea</i> による赤潮が確認され、11.1 まで継続した。 最高細胞数は 11.1 の四日市湾口 0m 層における 3,080 cells/ml であった。	不明	0	A.s. 3,080	無	四日市港管理組合 鈴鹿水産研究室

【備考】

1. *H.circularisquama* は 100cells/ml 以上を赤潮として扱った。

【注】

1. 「整理番号」は、発生時期の順に一連番号を記載し、() 内には発生海域毎に一連番号を記載した。(I、S、K はそれぞれ伊勢湾、志摩度会、熊野灘北部の各海域を示す。)
2. 2 あるいは 3 海域にまたがって発生した場合は、各海域のそれぞれに発生したものとして扱った。従って、例えば 2 つの海域にまたがって発生した場合は、1 つの発生に対して 2 つの整理番号を与え、発生件数は 2 件とカウントした。
3. 「発生時期」は、発生が確認された日から消滅日までを記載することを基本としたが、同一海域で発生、消滅 (一時的な細胞数の減少) を繰り返したものについては、最初の発生から最後の発生まで (完全な赤潮の終息まで) を 1 単位として記載した。
4. 水色表示の () 内は、赤潮情報伝達事業、赤潮調査事業水色カードの番号で示した。